

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日: 令和3年3月4日

公表: 令和3年3月29日

事業所名 チヤイルドハート東海あさひ

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------|----|--|----|-----|------------------------------|--|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | | ○ | 極力戸外に出たりスペースを取らない遊びをしていっている。 | 継続して行いながらも新店舗など視野に入れる |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | ○ | | | 基準の人員は十分に確保しており、他事業所と比べても丁寧に関われるように配置されている。今後は事務や社員増員を検討 |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | ○ | | | 事業所の大きさから大き目の車椅子が入れるか難しいかもしれないが、玄関からどの部屋にも段差などはないようにされており利用児が踏くことはない。 |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | ○ | | | 日々の業務や個々のイベント、ヒヤリハット、支援計画など色々な場面でやっている。文章として残していくのが今後の課題。 |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | | 極力意見に沿えるように努力している。また取り入れるのが難しいものは説明できるようにしていきたい。 |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | ○ | | | 公開している。保護者からはあまり感想やこれについて意見が出て来ないため周知する必要があるのかもしれない。 |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | ○ | | | 他事業所と連携する中で第三者的な目線や意見を入れることはあり、それにより改善につなげている部分はあがるが、網羅的な物ではないので今後の課題となる。 |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | | 月4回程度の研修が実施されており、児発管や管理者、オーナー、指導員など様々な対象に向けて研修が行われている。また事業所内のMTで共有をはかっている。 |
| 適切な支援の提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | | 保護者や相談支援員、学校、保育園等に聞き取りを行い、書類を作成して、それを元に支援計画を作っている。 |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | ○ | | | 標準化されているかの判断はできないが、必要な子とは網羅的に書いてあり、児発管研修で使用されているものと遜遜はないと思われる。 |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | | 個々に任せるのではなく、社員で話し合ったうえでパートの方にも意見を貰いながら行っている。 |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | | イベントに関しては毎月同じものはないようにしている。一方でコロナ禍により活動範囲・内容が狭まった。 |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | ○ | | | 日ごとに課題の反省を行い、新しい課題を用意したり、複数用意する中で利用児の自由な選択ができるようにしている。 |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | | 個々の発達に応じて人間関係や集団、個別での活動のねらいを考えている。 |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | | 毎日行っている。日によっては朝、支援前、支援後の3回行うこともある。 |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | ○ | | | 上記に同じ。またその日出勤しない支援者にも共有できるように日報やネット等を活用している。 |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | | 日報や個々の子どもの支援記録など毎日作成しており、それとモニタリング等を通して計画を作っている。 |
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | ○ | | 半年に一回以上個別支援計画を更新するようになっている。 | |
| | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている | ○ | | | 基本的にア・イ・ウ・エ全て意識して支援にあたっているが、ウに関してはコロナ禍で選択肢が狭まっているのが課題。 |

| | | | | | | |
|--------------|----|---|---|---|---|---|
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | | 主に児童館が参画しているが、時と場合により教員経験者や契約時の情報を持っている者などを同伴させる場合があり、円滑に話を進めている。 | |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | ○ | | | 電話・口頭だけでなく、手紙やFAXなども必要なら用いている。また担当者会議等でも情報の共有や支援の方向性役割など話す事もある。 |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | ○ | | 過去も含め該当児がいないため体制をつくってはいないが、必要であれば直ぐに整える。 | |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | | ○ | | 就学を機に利用する場合は該当機関と情報共有を行うものの、就学中であれば学校からその情報を聞く形にしている。 |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | ○ | | | 実績はないが、必要であれば情報の共有や提供ができるようにしている。 |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | ○ | | 該当の研修を受けている。 | |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | ○ | | | コロナ禍のためあえて接触する機会をなくしている。事業所の理念上ネットテレビ、スマートフォン、タブレット等を見せないでの交流は考えていない。 |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | ○ | | 参加し、情報提供や共有を行っている。 | |
| 保護者への説明責任等 | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている | ○ | | 送迎や連絡帳、電話、メール、SNS等幅広く用いて保護者と支援について共有や意見交換を行っている。 | |
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | ○ | | | 上記以外にも本部がZOOMにより保護者向けの研修(ペアレントトレーニング)を行い支援を行っている。 |
| | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | | | 契約時に丁寧に説明し、必要であればいつでも相談や問い合わせを受けられるようにしている。 |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | | | 事業所内で共有し、意見を出し合うなどで保護者に発達コーチングの観点から助言や支援を行っている。 |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | ○ | | | コロナ禍以前では毎月1回ママカフェを開催しそのような場を作ってきた。いつ復活させるか検討中。 |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | | | あまり苦情がよせられることはないが、迅速に対応できるように心がけている。また保護者から指摘がある前に察知し丁寧に対応できるようにしている。 |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | | | 月1回通信を発行し保護者や学校等に配付している。 |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | ○ | | | 同意書等も作成し写真や動画と撮る際も注意している。 |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | ○ | | | 言葉だけでなく、文字でやり取りをしたり、写真で行く場所の希望を選択できるようにするなど合理的な配慮を心掛けている。 |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | | ○ | | 計画はあったがコロナ禍のため頓挫した。再度検討していきたいが32よりハードルが高い。 |

| | | | | | |
|---------|----|--|---|--|---|
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | ○ | | 共有後印刷してファイルにはさみ閲覧できるようにしたり、壁に貼り意識できるようにしている。 |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | ○ | | 月1回程度避難訓練を実施している。また消防署の見学に行き防犯防災意識を高めている。 |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | ○ | | 研修に参加したり、その内容も共有している。 |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | ○ | | 契約時に説明したが、現在の利用児に身体拘束は必要が無いため行わないようにしている。今後利用児の身を守る上で必要であれば保護者に丁寧に説明を行い利用内容の変更や承諾頂くようにする。 |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | ○ | | 現在該当する利用児はいないが、在籍中は意識し丁寧に対応していた。 |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | ○ | | 月2～4枚ほど作成し、日報等でも併せて書くなどして共有している。 |